

(会場)

植村 赤平コミュニティガイドクラブ「TANtan」の企画担当をしております、植村と申します。赤平には立坑櫓などの炭鉱遺産の機材があるのですが、それを公開するためにもガイドが必要ということで、3年程前の春にガイドクラブを設立しました。構成メンバーは元炭鉱マン、婦人部の皆さんなど、15名ほど。元炭鉱マンから働いていた頃の話の聞いたり、婦人部の皆さんから地域のネットワークの話のきいたり、地域の人との交流で勉強になることがたくさんあります。

2年前には、かつて炭鉱街に住んでいた人やその家族など2000人ほどの来客がありましたが、それをピークに現在は減少しつつあります。また2年ほど前から客の視点が変わってきたと感じています。私たちの設定しているコースは約1時間で終わるのですが、カメラを持ってきて、3~4時間も遺産を撮って廻る人もいます。我々も、普通のルートだけでなく違う視点で炭鉱遺産をゆっくりみてもらうコースの提案を考えているところです。

赤平は特産品が無いので、せっかく訪れても、炭鉱遺産を見て帰ってしまう人が大半です。何が美味しいか聞かれても困ることが多かったので、来てくれた人に赤平らしい食を提案しようと、地域の人と協力して「赤平の食を考える会」を立ち上げました。その中で、寿司屋の裏メニューにあったホルモン鍋を、地域のメニューとして取り入れていけないか検討しています。もともと多くの炭鉱の長屋では、各家庭で石炭ストーブの上でこの鍋をぐつぐつ煮ながらお父さんの帰りを待っていた、ということで、赤平ではメジャーなメニューだったそうです。「ガンガンがんばろう」ということで「ガンガン鍋」とネーミングをしましたが、それを来た人に食べてもらおうということも始めています。ホルモン鍋はすごくお酒に合うので夜食べてもらいたいのですが、残念ながら赤平には宿がありません。今度は宿をつくらうか、などと皆でいろいろとテーマを膨らませながら活動を展開中です。

辻井 大物の資源の無いところでは、地域と旅行代理店とのつながり方が難しいということもありますね。

高橋 例えば今の植村さんのお話の中で感じたのは、確かに赤平にはこれだ、というものが無いようにみえますが、実は古くからある山田御殿や住友鉱山の立坑櫓などが残っている。ガンガン鍋と立坑櫓、山田御殿、バイオを活用したランの花など、一つひとつを別のものとして捉えるのではなく、いくつかの要素を組み合わせることで次の展開ができるのではないかと思います。

決定的に強いものがなくても、地域をきちんとしっかり見直すと間違いなく新しい発見があるはずです。そのためには、車ではなく自分の足で自分のまちをしっかりと歩く、できれば子どももお年よりも皆で歩くことで、間違いなく新しい発見があり、新しい誇りが出てくると私は信じています。

■これからの北海道観光と、北海道遺産の役割

辻井 まとめとして、今後の北海道観光と北海道遺産の役割・期待についてお話いただきたいと思います。

岩泉 「行ってみたい」観光地としては、北海道は未だに断トツのトップです。しかし、期待値が高いと通常レベルのものを実現していても期待はずれ感が大きい。期待値が極めて高いことは自信を持っていいと思いますが、それに応じた断トツにレベルの高い満足度も提供しなくてはならない。



石森 秀三氏

多くの日本人が人生を見直そうとしている。私自身も還暦で北海道へ来たように、北海道は「熟年よ大志を抱け」と思わせる大地。人生を新しく展開するのになさわしい。